

開会の辞

大森 元吉

(国際基督教大学社会科学研究所長)

集会は黙禱をもって始めさせていただきますので、最初、短い黙禱をお願いいたします。ありがとうございました。

それではただいまから第18回国際シンポジウム、「多元的民族社会の緊張・相互理解・協調」を開催させていただきます。なお講演者の皆様、ご参加の皆様、お忙しいところ誠にありがとうございました。私は大森と申しますけれども、このご挨拶をさせていただきます。それで、ご挨拶につきましては、プログラムに印刷させていただいたのでございますけれども、概要をここで申し上げます。

いよいよ21世紀も近づいて参りまして、いわゆるグローバリゼーション、世界化あるいは国際化、と申しまして全世界規模の国際化の時代というふうに言われております。この20世紀は南北、つまり発展途上国と先進国の間の問題が緊急の課題でございましたけれども、これからはもちろんこの20世紀の課題を引き続いて、解決に努力して参る時期ではございますけれども、なお今度はそれぞれの国内における民族間の融和、相互理解、協調ということが緊急の課題となってきております。ここにも書かせていただきましたけれども、スリランカの問題、ボスニア・ヘルツェゴビナの問題、またルワンダの問題等々、国内における民族対立の問題が今や世界的に様々な形で先鋭化しております。そこで、この時期にあたりまして、何よりもその状況を、客観的に、科学的に、それぞれの学問分野において把握し理解し、そして解決の道を探るということが重要というふうに考えられております。そのため、本日は社会学、人類学、法学、政治学、国際コミュニケーション、それぞれの専門家の方々に参加してい

ただきまして、またインドネシアからはスリヤニ教授にもご参加いただきまして、ここに講演の機会を得ることができましたことを、非常な喜びと致しております。皆様、どうぞこの一日を有意義にお過ごしくさいますようにまた、なにかとこの、何でもこの疑問に思われまはたことは、遠慮なく質問表に書いて、ご質問をお出しくさいますように。討議の時間には積極的にご発言くさいますようにお願い申し上げます。簡単ではございすが、挨拶はこの辺で終わらせていただきます。